

あいことば

h-matsubara@gfr.parinichi.com 担任 松原 秀樹

VOL.
34

16 JANV. 2026

TOPIC

一年の始まりは、書き初めから！そして、次へ…。

雪のための休校があった先週よりも気温が上がった3学期2週目。雨の日、強風の日があれば晴れ渡る日もあり、移り気なフランスの冬を感じる一週間でした。

先週末、子どもたちは書き初め会を行いました。一人一人集中して、書き初め用紙に向かい、一筆一筆想いを込めて進めていきました。1学期末まで教室前廊下に掲示しておきますので、ご来校の機会があればぜひご覧ください。

さて、1月も早や折り返し。子どもたちの学習も各教科で6年間のまとめへと向かっていきます。特に、総合学習では2月7日（土）のパリ日フォーラムへ向けて準備を進めています。6年生は、SDGsを学習の起点に置き、未来を生きる12歳の私にできることを考えています。「持続可能」な社会を実現するためには、今の世界には多くの課題があります。その課題に対して、今の自分に何ができるか、そして、最後に実際に自分は何をしていくかという「わたしの行動宣言2025」を一人一人が発表する予定です。

12歳は年齢的にはまだ子ども。でも、12歳の子どもにもできることは必ずある。そんな前向きな想いを持って、学習を進めています。当日は、5・6年生合同で2クラスに分かれて発表を行います。土曜日ですが、多くのご参観と活発な質疑ができますように期待しております。



SCHEDULE

来週の予定



日	19日(月)	20日(火)	21日(水)	22日(木)	23日(金)
朝	朝学習	朝読書	朝学習	朝の運動	朝学習
1	国語	フランス語	学活	フランス語	算数
2	理科	体育		理科	音楽
3	体育	算数		書写	道徳
4	算数	英会話	社会見学 UNESCO 本部	算数	理科
5	家庭	社会		社会	英語
6	クラブ	総合		総合	総合
持ち物	体育着	体育着			リコーダー
下校	12:00	15:40	15:40	15:40	15:40



第6回自学ノート選手権（6年生）～好きを極める自主学習～

第6回自学ノート選手権は、冬休みの宿題自学ノートを使って行いました。冬休みなので、クリスマスやお正月に関する内容も多く、「へえ～！」とみんなが感じるノートがたくさんありました。3学期も2週おきに自学ノート選手権を開催したいと考えています。「好きを極める」ことをいつも大きなテーマにして、一人一人が積極的に取り組める学習を続けたいと思います。

今回は、6年生と先生たちで評価した入賞者のノートを紹介します。

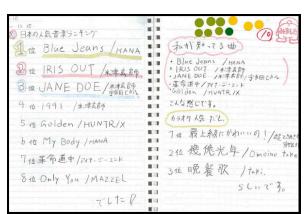


莉子さんのノートは、「おせち料理」がテーマでした。「おせち料理に入っている食材にはそれぞれ意味がある」ということに興味を持ち、一つ一つの食材の意味をイラストを使って紹介しています。日本の食文化には、人々の願いが込められて受け継がれているものがたくさんあります。テーマの選び方やイラストの使い方も上手です。

ぱっと見て人を引きつける工夫がされているのも莉子さんのノートの魅力ポイントですね。

次回は感想を書き加えるとさらにいいですね。

第1位 井上莉子さん



第2位 小松茉唯梨さん

次回第7回のテーマは「フランス」です。フランスについて自分の気になるポイントを調べ、極めたノートを期待しています！
〆切は1月26日（月）です。

語り継ぐ 1・17 阪神・淡路大震災に教えられたこと

明日2026年1月17日で阪神・淡路大震災発災から31年。兵庫県出身の松原にとっては、忘れられない日です。兵庫県では毎年この日に合わせて「震災犠牲者追悼式」や各学校での防災学習や避難訓練、メモリアル集会などを行っています。

私は直接被災したわけではありませんが、兵庫県の小学校に勤務している時、「EARTH（震災・学校支援チーム）」に所属していました。ERATHは、東日本大震災や熊本地震、能登半島地震では被災地の学校支援に行ったり、平常時は地域の学校での防災学習支援を行ったりという活動をする教職員のチームです。被災した学校・被災した先生や子どもたちを現地で支えるという役割。もう一つは、災害について正しく伝え、必要な備えができる子どもたちを育てるという役割を担っています。その中で私たちが大切にしてきたのが「語り継ぐ」ということです。

全国各地で地震などの災害が頻発し、いつ自分が被災者になるかわからないのが今の日本列島です。早い子で4月から、また来年度中に帰国する子も多い6年生の子どもたちにも、災害について学び考えもらう時間を今日設けました。今回の授業では、阪神・淡路大震災、令和6年度能登半島地震の被害の様子や松原の体験したことを話しました。また、学校防災みえの「防災ノート」を参考にして、「備蓄品」について考えました。「実際に災害が起きたとき、1週間自力で生活するためにどんな備えが必要か？」「自分にできることは何か？」を考える身近なきっかけになると思います。今日は、宿題にも「防災学習の話をする」ということを出しています。お忙しいと思いますが、知ることで、子どもたちはさらに学ぼうとっています。子どもたちに大人ができることは、経験や体験を伝え、一緒に考えることだと思います。保護者の皆様にも災害を経験された方もおられるのではないでしょうか。ぜひ、機会があればお子様にお父さん・お母さんの言葉で語ってあげてください。どうぞよろしくお願ひいたします。